



FIRST IN ROCK JOURNALISM

rockin'on

Vol.16 APRIL 1987

4

**ANNIE
LENNOX**
SWEET
REVENGE

**BEASTIE
BOYS**
WHITE RIOT
IN RAP
**JACKSON
BROWNE**

来日徹底リポート

忌野清志郎

『RAZOR SHARP』

全曲解説

●今夜のコンサート(ミラノ公演)ではずいぶんオーディエンスのノリがよかったですね。
「そうね。でも昨日のローマ公演なんか比べると、演奏そのものは不充分だった。建物の音響効果に問題があったし、午後のサウンドチェックのときにはホルルのマネージャーと私たちのあいだでイザコザがあったの。まあその言い争いはどうにかおさまったんだけど、やっぱり後味が悪くてね。ショーが始まる前だったのにみんな落ちこんじゃった」

●あなたとデイヴはツアーに参加している他のメンバーを自由にクビにすることが出来る立場にいるわけですね。あなたがたと彼らとの関係は、実際にはどのようなものになっているんでしょ。

「流動的なものよ。だいたい、誰がどれくらいの期間私たちと一緒にいてくれるかなんてわかるはずがないじゃない。長くいてくれる人もいれば、あつというまに出ていってしまう人もいて——つまりユリズミックスと仕事をしたいっていう人がいて私たちもその人に興味が持てれば、そのときにはバンドに入ってもらってしばらく様子を見るわけ。でも大事なのは一緒に活動した結果として生まれてくるものの質なのであって、その人がいた期間なんかを問題にするのは間違っていると思うわ」

●大スターになって広い会場でショーを行なうようになる、オーディエンスとのコミュニケーションが弱くなると一般的にはいわれていますか。

「そういうことをいふらす人たちが今夜の私たちのショーに来ていれねえ……私たちのサウンドのつてダンスをしていたのは前から二列目までのオーディエンスだけだったかしら？ 違うでしょ、みんなが踊ってたわ。ショーのあいだずっと演奏に合わせて歌っていたのは、一番前にいた赤いシャツ姿の男の子だけ？ そんなことはなかったわ、会場にいた人のほとんどが歌っていたじゃないの」

「広いところでプレイするのは好きよ。でもそれは自分のエゴを満たしたいからではなくて、会場にいる人数が多ければ多いほど雰囲気が高くなっていくからなの。ステージに立ったときにまわりの空気がビリビリしているのを感じることがあるんだけど、そういうときにはすごく気分がノッちゃう。カーニバルに行ったときみたいな気持ちになっちゃうわけ」

●でも、ホテル暮らしにうんざりするようなことではないんでしょか。

「おまけに昔よりもずっと快適な条件で旅行ができるようになっていまして。いいレストランで食事をする事ができるし、いいホテルに泊ることもできるし、移動だって楽になった。前は本当に大変で——おんぼろのクルマで移動していたころには、ガタガタ走るパンのなかで座っていると排気ガスで気分が悪くなって、もしそうになったら悪寒がしたりしたのも——昔の話だけだね。でもあんなツアーはもう二度としたくないわ」

●あなたがたを見てみると、さまざまなイメージをじつとたくみに操作しているという印象を受けるんです。アルバムジャケットの雰囲気は全部が全部異なっているし、グラミー賞授賞式でのあなたは五〇年代のロックンローラーみたいだったし……。

「でも男っぽいイメージに対しては、もうそれほど執着していない。「リヴェンジ」の歌詞からもわかると思うけど、いまは女らしさのほうを強調しているわ」

「サウンドに関して私たちはいろいろなものの影響を受けていて、しかもその影響を自分たちの作品にとり入れていくのが上手なの。それがユリズミックスの強みよ。たいていのバンドでは各メンバーが受けている影響をすべて同時に使ってしまうとするんだけど、それではたんなるゴタマゼにしかならない。私たちがレコードをつくるときには、ある時点で感じていることをひとつだけとりだして強調するようにし

ているわ。一枚のアルバムのなかにもあれもこれも付け加えていくとパンチが弱くなってしまふ」

●ただ「リヴェンジ」には進歩がみられない、いままで以上にたくさんの陳腐な表現が使われている、といった感じの批判が一部にはあるようだが。

「バカげた意見よ！ シンプルなロックンロール・アルバムを作っただけじゃないの。私たちのアイディアは枯れてなんかいない、最近では昔なんかよりもずっと多くのいいアイディアを持っているくらいなのに」

●話題を変えましょう。アレサ・フランクリンは「シスターズ・ドゥーイング・イット・フォー・ゼムセルヴズ」に参加する前からあなたがたのことを知っていたんでしょか。

「ええ、もちろん。ユリズミックスは初めのころからアメリカやイギリスの黒人の支持を受けているようなグループなのよ。それにあのシングルが出てから、黒人のファンはかなり増えたと思うわ」

●「シスターズ……」はメッセージ・ソング的な曲でしたが、あの曲を発表したためにフェミニズム論者というレッテルを貼られたということはありませんか。

「あるわ。他の人から寄せられる期待が大きすぎる、プレッシャーになって……私はデビー・ハリーでもなければスージー・スーでもないのよ。フェミニスト運動のシンボルやリーダーにされるのもイヤ、私は本当に平凡な人間よ。私にできることといたら、精神的に自立して、私にできることとやら、精神的に自立して、私にできることとやら、精神的に自立して、私にできることとやら……」

分て勝手に解釈しているの。それに、そういうったかたちでの信仰が芽生えたのは一年くらい前に私の父が死んだときだった。父の死をきっかけにして、私自身の限りある命のこととかひとり人間としての役割について考えるようになったよ」

●あなたの私生活に関してマスコミがいろいろと詮索してきましたよね。バイセクシュアルだつていう噂がたつたこともあったし、結婚後はあなたと宗教団体との関係にみんなが注目した。さらにあなたが離婚すると、イギリスのプレス

が「仲のいいジャーナリストはたくさんいるけど、イギリスのマスコミに敬意を払うことなんか絶対にできないわ。ものすごく下品で、音楽に関係のないところにまでクビを突っこんでくる……でもそれ以上に腹が立つのは、彼らが事実を都合のいいように書きかえてしまうこと。私と一度も会ったことのない人間が、自分は真実を知っているんだぞつていう感じの調子でいい加減な話を書くんだから」

●たとえば？

「ハレ・クリシュナ教徒と結婚していたところに、あの宗教にもいいところがあるって話をしたんだけど——菜食主義の考えかたなんかには賛成できたのよ。ところがイギリスのプレスが、その話をおもしろおかしく脚色してしまつたわけ。私が頭を丸坊主にして走りまわっているなんて、そんなバカな！」

「心理学の専門家にそのことを相談したら、人間の心理は複雑なものなのよっていわれたわ。人間はある存在を一定のレベルまで高く評価すると、今度は徹底的におとしめたくなるものなんですって。私たちの心には分裂症的な傾向があるのね、きつと」

「だからデイヴにしても私にしても、ロック関係のプレスの話をまじめに聞こうとは思っていないの。「リヴェンジ」はコテンパンに批評されたけど、実際には私たちの作品のなかでもいち



EURHYTHMICS by CHRISTINA PASCALIS ORION PRESS
ANNIE LENNOX interview

EURHYTHMICS

私はデビー・ハリーでもなければスージー・スーでもない、
本当に平凡な人間よ

肥大したセルフ・イメージを客観的に見つめながら リヴェンジ 批判に答える

ばん出来のいい部類に入る作品だわ。ステイ
ヴィー・ワンダーやアレサみたいな黒人ミュー
ジシャンたちと、おたがいに尊敬しあいながら
仕事をすることができたし——プレスのなか
には、白人がブラック・ミュージックにとりくむ
ことをとやかくいう人もいるけど、ダイアナ・
ロスがラスヴェガスの白人観光客向けの曲を歌
っても文句をいわなくせに、いったいどうし
てなのかしら」

●ところで、デイヴと最初に会った頃ってのは
どんな生活だったんです？

「始めのうちは冒険っていいもいぐらい太
変な暮らし、本当に貧乏だった。私たちはひ
い場所を転々としていて——ガレキの山みたい
なところに住んでいたことだってあるんだから
トイレに行くときなんかね、岩やコンクリート
の破片の山を一生懸命に乗越えて進まなきゃな
らなかつたほどのひどさだったわ(笑)。食べ物
を買うお金も全然なかつたから、料理をする
ときには相当頭を働かさなければならなかつた。
お鍋のなかにニンジン一本と小さめのジャガイ
モ一個を放りこんで、そうやってなんとか口に
することのできるモノを作っていたわけよ。ま
あなにしろ二人で週に十一ポンドしか稼いでい
なかつたから、本当に悲惨だったわね。でも心
のなかは豊かで、とってもしあわせだった」

●恋愛関係はすでに終わっているにもかかわらず
デイヴと活動しているのはなぜなのでしょう
つまり、いまのあなたにとつてのデイヴはど
ういった存在なんです？

「私のアイデアを映す鏡のような人。私に備わ
ってないものをすべて持っているような人。
私の最大の欠点は他人の意見に対してあんまり
寛容ではないところなんだけど、デイヴはすこ
く忍耐強くて、自分の考えをひとますわきに置
いておいて他人の話を聞くことができる。と
てもじゃないけど私にはできないことだわ」

MIRACLE OF EURYTHMICS

EURYTHMICS



PRODUCED BY DAVID A. STEWART

ロック・ミュージックの美しさ、
芸術性、パワー、こうした可能
性について、今一番明確な答え
を提示してくれるグループ、そ
れがユーリズミックスだ。世
界中の音楽ファンを幸せにして
来た最高のステージ“リヴェン
ジ・ツアー”が日本で大きなフ
ィナーレを飾ろうとしている。

3月来日!

歌詞完全対訳付

リヴェンジ/ユーリズミックス

●RPL-8346 ●RPT-8346 各2,700 ●R32P-1061 ¥3,200 (絶賛発売中)

曲目▶ ミッションナリー・マン/ソーン・イン・マイ・サイド/ホエン・トゥモ
ロー・カムズ /ザ・ラスト・タイム/ミラクル・オヴ・ラヴ/他全10曲

12 INCH SINGLE

ミラクル・オヴ・ラヴ ●RPS-1031 ¥1,500
(2月21日発売)

●SIDE-2 ホエン・トゥモロー・カムズ ライヴ・ヴァージョン
フーズ・ザット・カール ライヴ・ヴァージョン

NEW SINGLE

ミラクル・オヴ・ラヴ ●RPS-230 ¥700 (絶賛発売中)

来日公演日程▶ 3月13日(金)大阪・フェスティバルホール ●3月14日(土)名古屋公会堂 ●3月16日(月)福岡・サンパレス ●3月18日(水)東京・代々木オリンピックホール
★コンサートの問い合わせは、ウー音楽事務所 ☎03(402)7281まで



スイート・ドリームス
●RPL-8200 ●RPT-8200
各 ¥2,700
●R32P-1009 ¥3,200



タッチ
●RPL-8224 ●RPT-8224
各 ¥2,700
●R32P-1008 ¥3,200



イン・ザ・ガーデン
●RPL-8243 ●RPT-8243
各 ¥2,700
●R32P-1033 ¥3,200



ビー・ユアセルフ・トゥナイト
●RPL-8298 ●RPT-8298
各 ¥2,700
●R32P-1012 ¥3,500



タッチ・ダンス
●RPL-8014 ¥2,300